

令和 7 年度 西東京市立 青嵐中学校 学校評価報告書

学校教育目標

社会人としての資質を養い、心身の調和のとれた人間に育てる。
 1 豊かな創造性を育てる。(創造) 2 人を尊重し、物を大切にすることを養う。(貢献) 3 目的に向かって努力する意思を培う。(挑戦)

目指す学校像 (ビジョン)

- 【目指す学校像】 温かく活気あふれる学校
- 【目指す生徒像】 ①深く考えることのできる生徒 ②自他を尊重し共生の意識をもつことができる生徒 ③規則正しく生活し、心と体を健康に保つことができる生徒
- 【目指す教師像】 ①自分の専門性を発揮させるための通所研修等積極的な参加や教材開発 ②適切に学級経営ができる教員育成のOJT ③適切な報告、連絡、相談ができる教員

前年度までの学校経営上の成果と課題

- ・授業改善推進拠点校として3年間充実した校内研修を重ね、教員の授業力向上や意識の変化、主体的に意見を話し合える生徒の学力向上に一定の成果が見られた。
- ・生徒の変容を見取り、教職員同士の情報交換や共有を図り、生活指導の組織的な連携を確実に図っていくことが課題である。

| | 具体的方策 | 第1回評価 | 課題と対策 | 第2回評価 | 学校関係者評価 | 課題と次年度以降の対策 |
|-----------------|---|-------|--|-------|---|--|
| 確かな学力の向上 | ①活用力を高めるために、「教えて考えさせる授業」を推進し、全教員による研究実践を行う。 ②基礎学力や学ぶ意欲を高めるために、放課後補習体制を拡充する。 | 3 | 生徒の90%ほどが肯定的な回答なのに対し、保護者は65%程度に留まるなど、低くなっている。理解を得られるような授業の展開や、授業外での取組の支援などを検討していく必要がある。また、取組や現状の周知にも努めたい。 | 3 | 確かな学力の向上を図るために、「OKJ」を導入して、具体的に推進していることが評価できます。保護者評価が低いのは家庭で生徒が振り返り学習をしていないからだろう。保護者の意見を聞く機会を設け、今後の指導方法に参考になるものがあるかどうかチェックしましょう。タブレットが新しくなりAIなどの利用により活用が増えそうなので期待しています。 | 課題は、保護者評価が低く家庭での振り返り学習が十分でない点である。次年度は、OKJの実践を一層充実させるとともに、保護者の意見を聞く機会を設け、家庭学習の習慣化を図る。また、新しいタブレットやAIの活用を進め、学習効果の向上を目指す。 |
| | ①授業や家庭学習でタブレット端末を使用し、eライブラリの活用を通して、学ぶ意欲や学習習慣の確立を図る。 | 2 | 教員はタブレット端末を活用した授業や課題を展開している認識が高いが、生徒や保護者の認識は教員より低くなっている。もっと活用方法を考えて、授業のみならず家庭学習や課題で活用する方法を検討する必要がある。 | 3 | | 課題は、タブレットやeライブラリの活用が十分に定着せず、家庭学習の習慣化に差がみられる点である。次年度は、活用状況を定期的に把握し、効果的な活用例を共有するとともに、保護者とも連携して家庭での活用を促し、学習意欲と学習習慣の向上を図る。 |
| 豊かな心の育成 (いじめ防止) | ①学年の教員がローテーションで授業を担当し、自他の理解と尊重のための授業実践を行う。 ②年5回の面談・アンケートを実施し、生徒の心に寄り添う指導を行う。 | 4 | ローテーション道德で生徒の実態を学年で満遍なく把握できるようにすること、また、ミニ面談やふれあいアンケートを実施することで、生徒の様子や不安を見取り、生徒に寄り添う指導を行っている。生徒の肯定的な回答が多かった一方、保護者の肯定的な回答がそこまで伸びなかったため、理解を図っていく必要がある。 | 3 | 生徒のアンケート結果から「困っていることを言う場面」「良くない行動を見逃さず対応している」項目に不満が多いように思います。生徒会役員を中心にいじめ防止の取組を行っていることは大変良いと思いました。多様性を認めることのできる教育現場であってほしい。いじめの問題は、対応に問題が発生しないようマニュアルを改善しつつ研修等により先生方の対応力の向上にご尽力頂けたらと存じます。 | 課題は、困り事を安心して伝えられる体制や初期対応への信頼が十分でない点である。次年度は、相談体制の周知と面談の質向上を図り、生徒会と連携した取組を充実させるとともに、研修の強化により教職員の対応力と多様性を尊重する風土づくりを推進する。 |
| | ①いじめのない学校を目指し、生徒主体の活動を推進するとともに、教員の研修を行う。 | 3 | 年度当初に「学校いじめ防止基本方針」の見直しを図るとともに、教員の研修を行った。日頃の指導や呼びかけを生徒はしっかりと受け止め、教員の指導の姿を肯定的に捉えている生徒が多かったが、否定的な回答が20%近くあったため、対応を工夫する必要がある。 | 3 | | 課題は、生徒主体の活動が一部にとどまり全体への広がりや当事者意識が十分でない点と、教員間でいじめ対応の力量に差がみられる点である。次年度は、生徒会を中心に全校的な取り組みへ発展させるとともに、事例研修やマニュアルの見直しを通して教職員の対応力向上を図り、安心して相談できる体制を強化する。 |
| 健やかな体の育成 | ①各行事において生徒主体の行事運営を目指し、生徒を積極的に関わらせる。 ②生徒の目標達成に向けての支援、助言を通してやりぬく力の育成を図る。 | 4 | 運動会では昨年同様学校全体で実施することができた。生徒主体で行事を進められたことで、先輩から後輩に引き継げるような機会があり、生徒主体で委員会活動を活性化し行事の運営ができた。このような機会を増やすような取り組みを行っていく。 | 4 | これぞ「青嵐」という項目だと感じられる。運動会等の行事への取組は先生方のご努力に敬意と感謝です。保護者が直接参観することで素晴らしいさを実感していることが伺える。生徒が一体となって取り組んでいる様子を知ることができた。部活動は先生方が熱心に取り組まれていることに感じました。 | 課題は、行事や部活動での主体的な取組を日常の生活や体力向上上へ結び付けきれていない点である。次年度は、生徒の目標設定と振り返りを充実させ、行事で培った達成感や協働性を継続的な取組へ生かすとともに、保護者とも連携しながら健やかな体とやり抜く力を一層推進する。 |
| | ①部活動の参加を推進し、心身ともに健やかな成長を図るとともに、指導者・生徒・保護者一丸となった部活動の運営を行う。 | 4 | 運動部においては、体育健康教育の一環として部活動に取り組んでいる。文化部においても、心身ともに健やかな成長を図れるような指導の実践を目指した。保護者の協力も不可欠であり、引き続き理解を得られるような運営を行っていく。 | 4 | | 課題は、部活動への参加状況や活動意欲に差がみられる点や、指導者、生徒、保護者の連携が十分でない点である。次年度は、部活動の意義を周知し参加を促すとともに、活動方針や目標の共有を図り、三者が連携した運営体制を強化して心身の健やかな成長につなげる。 |
| 特色ある教育活動 | ①総合的な学習の時間の核として、「西東京ふるさと探求学習」に取り組み、地域人材を活用することで、地域理解を深めさせる。 ②地域行事の積極的な参加を推進する。 | 2 | 授業においての取組は、学年ごとに差が出た。また、保護者の肯定的な回答が半数以下となった。CSとして地域人材を活用した取組も増え、生徒会役員主催の地域清掃活動や、部活動による地域イベントへの参加など、前向きな取組を多く行っているのでも周知に努めたい。 | 2 | 「西東京市についての学び」について、学年で差が出ています。3年間というスパンでトータル的に学びができれば評価できる。地域行事に熱心に取り組んでいる様子を拝見しました。避難所運営コンサートや地域商店街のイベントの参加、多世代交流型地域クリーン活動の取組は大変良かったです。子どもたちの健全育成につながっている。 | 課題は、「西東京市ふるさと探求学習」の内容や到達目標に学年の差が見られ、3年間を通した系統的な学びが十分でない点である。次年度は、年間計画と評価規準を整理し、3年間の学びを体系化する。また、地域人材との連携を一層深め、地域行事への参加を通して実践的な学びを充実させる。 |
| | ①特別な配慮が必要な生徒の支援や合理的配慮、交流活動を通して、共生の意識を育てる。 | 3 | UDフォントの推奨など、さまざまな特性をもった生徒が幅広く対応できるような授業・教材作りに努めた。教員の肯定的な回答が高くなった一方、保護者の理解が得られていない部分があるので、周知の方法を考える必要がある。 | 3 | | 課題は、特別な配慮が必要な生徒への支援や合理的配慮の理解が十分に共有されていない点や交流活動が一部にとどまっている点である。次年度は、校内研修を充実させ支援体制を明確化するとともに、計画的な交流活動を推進し、互いを尊重し合う共生の意識の一層の醸成を図る。 |
| 業務改善・働き方改革 | ①教職員の週あたりの在校時間が60時間を超えないようにする。 | 3 | 実際には勤務時間外を超えて残務仕事をしている教員も数名いる。仕事の分担や優先順位を考えるなど工夫をして仕事を軽減できるよう努力をすることが大事。 | 3 | 学校において先生方の勤務時間については、労働基準法を無視した感があり社会的な課題です。教師はより良くを望んで頑張る傾向があるので時間的縛りやこれよりとする意識を持つといい。 | 課題は、仕事の段取りや時間の活用を意識する取り組みが少ない状況である。次年度は、仕事のメリハリの徹底を図り、勤務時間の可視化と定期的な振り返りを行うことで、働きやすさややりがいを持つ職場環境の実現を図る。 |
| | ①SSSやデジタル採点を活用し、業務の効率化を図る。 ②ライフワークバランスについて、自己申告書に具体的な目標を示させて取り組む。 | 2 | 採点システムやAIの導入により、業務の効率化を図っている。しかし、膨大な業務量を遂行するには、より多くの対策や工夫が必要となっている。自己申告書にてライフワークバランスについて振り返る機会を有効に活用したい。 | 2 | 近年での最重要課題でしょう。先生方がやりがいをもち楽しく、活き活きとした姿であることが何より子どもたちが前向きで健全な心を育む原動力です。 | 課題は、SSSやデジタル採点の活用で個人差があり、業務削減効果が十分に共有されていない点と、ライフワークバランスの目標が形骸化しやすい点である。次年度は、活用研修や好事例の共有を進めるとともに、自己申告目標の達成状況を定期的に確認し、具体的な改善につなげる体制を整える。 |